

寄稿 上嶋晴久

### チェンマイ街路樹保全の取り組み

NMCにおいてタイ国チェンマイとの交流は、2003年以降「チェンマイ都市開発研究財団(UDIF)」をはじめ、2006年にはJICAシニア海外ボランティアの派遣(筆者を含む都市計画支援チーム)、2010年には平城遷都祭アジア歴史都市パネル展への出展等、毎年のように交流が続いているが、奈良ロータリークラブ(WCS担当若林氏)との協働で、新たにチェンマイ街路樹保全の動きが加わるようになった。

チェンマイ中心部から郊外につながる幹線道には古くから街路樹が植樹され、ランプーンに至る道路では約700本に及ぶゴムの木の並木があり、サンカンペーンに至る道路では合歓木の並木など、景観上重要な街路樹により森の都チェンマイのアイデンティティを創出している。

しかし近年、これらの樹木は増えすぎた自動車等の排気ガスや、根基までアスファルトで舗装された影響により、健康を損なう樹木が多くなって来ている。このような背景のもと、奈良とチェンマイの協力を発展させ、JICAボランティアが残したメージョー大学(タイ国立農業系大学)での樹木医についての成果を生かした、新たな街路樹保全を進めるような継続的な支援策が求められている。

今回の主体は奈良ロータリークラブとランナーロータリークラブの協働による奉仕活動とし、メージョー大学がこれを支援、NMCとUDIFはこれを側面支援し、将来的にはNMC独自の支援ビジョンも考慮、実行する必要がある。

